

第10回 松蔭読書会

2017年7月18日（火）13:00～

読書会もついに10回目となりました。そんな記念すべき10回目の読書会の課題図書には、投票の結果『疾風ロンド』（東野圭吾著 実業之日本社文庫 2013年）が選ばれました。昨年、阿部寛さん主演で映画化もされた作品です。

今回は、高校3年生2名、卒業生1名、司書4名の計7名で行いました。そして、読書会恒例のお菓子は、ケーニヒスクローネの「神戸に住んでる小ぐま」のサブレでした（作品にでてくるテディベアにちなんで）！ おいしいお菓子をいただきながら、今回も和やかな読書会となりました。



疾風ロンドを読んだ感想

- ・肩の力を抜いて書かれた作品かなと思った。登場人物がたくさんいて、誰に焦点があたっているのかな？！という感じがした。
- ・終わり方が意外で、想像と違った。
- ・映画化するから読んでみた作品。読んでいて2回ぐらいだまされた感じがして、面白かった。
- ・話にスピード感があって、一気に読めた。最初も、えっ？！と思ったけど、最後まで意外な終わり方だった。
- ・もし自分があの雪山にただ遊びに行ったスキー客なら、本当のことは知りたくないと思った。
- ・映画も本もスピード感があった。
- ・誰が主人公なのか分かりにくかった。映画化するなら、誰が主役なんだろう？と思った。
- ・東野圭吾さんはスキーが好きなのかな？ と思った。
- ・折口真奈美にもうちょっと活躍してほしかった。もっとヒール役になれそうだったのに…。
- ・サスペンスというよりもコメディ？！
- ・折口真奈美の屈折はなぜ？
- ・子どもたちは、中学2年生というよりも、高校生ぐらいのイメージ。
- ・なぜテディベアだったんだろう？





映画を観た印象は？

- ・小説も映画もほぼ同じに感じた。
- ・小説がそのまま映画になった感じ。
- ・小説で読んだ栗林のイメージよりも、阿部寛は手足が長すぎる！
- ・折口の弟のあやしさが、ムロツヨシでぴったり。一方、ムロツヨシより若いイメージだったという意見もありました。
- ・ミハルちゃんが、映画ではうまく喜劇的な変換をされているなと思った。
- ・テディベアのイメージがちがった。
- ・映画をみて、どどめ色ってこういう色なのかと思った。
群馬県や埼玉県では桑の実のことをドドメというそうです。
(『最新 ひと目でわかる 全国方言一覧辞典』学習研究社 1998年 より)
- ・ムロツヨシと大島優子のバトルのシーンが、迫力があって、映像がきれいだった。
- ・疾走感がすごかった。



好きな東野圭吾作品は？

- ・白夜行 ・手紙 ・ナミヤ雑貨店の奇蹟 ・天空の蜂
- ・さまよう刃 ・流星の絆 ・容疑者Xの献身
などの作品があがりました。

いずれも図書館に所蔵していますので、興味のある人はぜひ読んでみてくださいね。

次回のお知らせ

次回の読書会は、12月18日(月)の予定です。課題図書は未定ですが、今回の読書会でいくつか案がでていたので、決まり次第、校内掲示およびホームページにてお知らせします。次回もぜひご参加ください。

